

日本語母語話者にとっての「過去の出来事」・「過去の状況」とスペイン語の「点過去」・「線過去」の使い分け

山村, ひろみ
九州大学大学院言語文化研究院言語環境学部門

<https://doi.org/10.15017/2230726>

出版情報：言語科学. 54, pp.37-54, 2019-03-12. Faculty of Languages and Cultures, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

日本語母語話者にとっての「過去の出来事」・「過去の状況」と スペイン語の「点過去」・「線過去」の使い分け*

山村 ひろみ

0. はじめに

周知のように、スペイン語学習者にとって直説法点過去(*pretérito perfecto simple*, 以下 *ps* と略記)と直説法線過去(*pretérito imperfecto*, 以下 *imp* と略記)の機能的違いを理解し、両者を正しく使い分けするのは非常に難しいと言われている¹。この「点過去」と「線過去」の難しさは学習者のみならず、スペイン語を教える側にとっても同様で、TADESKA²がスペイン語教師に対して行ったアンケートによると、「点過去」と「線過去」の区別はもっとも教えにくい項目のひとつとしてあげられている。本稿は、そのような「点過去」と「線過去」の機能的違いを、とりわけ、日本語を母語とするスペイン語学習者に対してなるべく自然に理解してもらうにはどのようにしたらよいか、という問題に対する一提案ともいえるものである。

筆者は、これまでに二度日本語を母語とする学習者に対して「点過去」と「線過去」の違いをうまく説明するにはどのようにしたらよいかという問題について発表してきた。ひとつは山村(2008)で、そこでは、1990年代終わりから10年間に発行されたスペイン語教科書39冊における「点過去」と「線過去」の説明で用いられたキーワードを整理、その問題点を指摘した上で、それらに取って代わる教授法、つまり、「過去の出来事」は「点過去」、「過去の状況」は「線過去」という説明を提案した。もうひとつは Yamamura(2016)で、そこでは、山村(2008)の提案した「点過去」と「線過去」の説明が有効に働くためには「過去の出来事」と「過去の状況」の区別を明確にする必要があること、また、それに付随すると思われる困難さが指摘された。

以下では、まず第1節で上記の2つの論文の内容を簡単に紹介した後、第2節では、日本語を母語とするスペイン語学習者にとって「過去の出来事」と「過去の状況」が何を意味するのかを知るために実施した調査とその結果を示し、続く第3節では、前節の調査結果に基づき、日本語母語話者にとって「点過去」と「線過去」の違いを「過去の出来事」・「過去の状況」という用語を用いて説明する際に注意すべき点を明らかにする。そして、最後の第4節では、それまでのまとめをする。

1. 従来の「点過去」と「線過去」の説明と新たな提案：山村(2008)と Yamamura(2016)

本節では、前述の山村(2008)と Yamamura(2016)の内容を紹介することを通し、それまでの「点過

* 本稿は2018年8月28日東海大学山中湖セミナーハウスで開催された日本スペイン語学セミナー(SELE2018)における統一テーマ「学習者の誤用から文法を考える」の中での発表「日本語母語話者にとっての「過去の出来事」「過去の状況」と点過去と線過去の使い分け」に加筆・修正を施したものである。なお、本稿はJSPS(科研費18H00677)の助成を受けている。

¹ Cf. 添谷(2013)

² TADESKAとは関西スペイン語教授法ワークショップ(Taller de Didáctica de Español de Kansai)のことである。

去」と「線過去」の説明方法の問題点を明らかにすると同時に、それら2つの論文で提示された新たな説明方法を示す。

まず、山村(2008)から見てみよう。先にも述べたように、同論文は当時日本で出版されていたスペイン語教科書39冊を対象に「点過去」、「線過去」の説明に使われていた用語を抽出した上で、「点過去」、「線過去」の説明を5つに分類し、それらにはみな問題があることを指摘した。本稿ではこの5分類のうち特に重要な4つ、すなわち、(1)「点過去」と「線過去」の違いをアスペクトの違いとする説明、(2)「点過去」と「線過去」の違いを日本語の「タ」と「テイタ」の違いを使って説明するもの、(3)「点過去」と「線過去」の違いを共起する副詞によって説明するもの、(4)「点過去」の用法には触れず「線過去」に特有とされる用法だけを取り上げる説明、を取り上げ、それらがなぜ問題になるのかを確認しておく。

さて、言うまでもなく、これまで「点過去」と「線過去」の説明にもっともよく使われてきたのは、「点過去」は過去の事態の時間的限界性に言及するのに対し、「線過去」はそのような時間的限界性には言及しない、つまり、両者はアスペクトにおいて対立するという説であった。しかし、この説明には、次の例に示されるような問題がある。

(1) Parece ser que ***durante los tres últimos meses mantenía*** (imp) relaciones de noviazgo. (CREA, *El País*, 18/09/1977)³

最近3か月の間彼女は恋人関係を維持していたらしい。

(2) Bringas ***era*** (imp) ***hasta el año pasado*** socio fundador y presidente de Consultores de Publicidad, (...) (CREA, *El Mundo*, 11/02/1994)

ブリングスは昨年まで広告コンサルタントの創立者兼社長だった。

(3) ¿Sois felices? --- Lo ***éramos*** (imp). (Pero ya no lo somos.) (Sándor 2006:51)

「君たちは幸せかい。」－「幸せだったわ。(でも、もう幸せではない。)」

(4) ***Desde aquel día fueron*** (ps) enemigos. (Guitart 1978:152)

あの日以来彼らは友だちだった。

「点過去」と「線過去」の違いをアスペクト対立と見なし、そのような観点から両者の違いを説明する方法の問題点は、まず、過去の事態の時間的限界性には言及しないとされている「線過去」が例(1)の ***durante los tres últimos meses*** (最近3か月の間)、例(2)の ***hasta el año pasado*** (昨年まで) といった時間的限界性を明示する副詞句と共起することがあること、また、時間的限界性に言及しないがゆえに、当該の過去事態が発話時において無効かどうかは表示しないはずの「線過去」が、例(3)のように、当該の過去事態が発話時における無効性を含意することが少なくないこと、さらに、「線過去」とは逆に、当該の過去事態の終結を表示すると言われる「点過去」が、例(4)が示すように、当該事態の開始時を示す副詞句と共起し、その生起・成立を表すことがある、という点である。つまり、「点過去」と「線過去」の間に想定されるアスペクト対立は、その実態を網羅的に説明するわけではないのである。

次に、「点過去」と「線過去」の違いを日本語の「タ」と「テイタ」の違いを援用しながら説明する

³ 用例中で問題になる時制形式を含む部分は下線で示すと同時に「点過去」は ps, 「線過去」は imp で示す。また、太字斜体部分は問題になる副詞句を示す。

際の問題点を見る。それらは、例(5)(6)が示すように、日本語の形容詞文、名詞文は「タ」しか取ることができないため、それらに「タ」と「テイタ」の違いを応用することはできないということ、また、例(7)(8)が示すように、日本語の「テイタ」で終わる文はしばしばスペイン語の「点過去」に対応する⁴、ということである。さらに、「テイタ」を「線過去」と結びつける説明は、例(9)が示すように、「線過去」と「過去完了」の混同を引き起こす可能性がある点も問題である。

(5) Cuando Taro ⁴fue/era (imp) niño⁵, ... 太郎が小さかった (子どもだった) とき、...

(6) Mozart fue (ps) /era (imp) un niño prodigio. モーツァルトは神童だった。

(7) ¿Qué hiciste ayer? --- Estuve (ps) estudiando sola en casa.

昨日何をしたか。家でひとり勉強していた。

(8) そこにどのくらい住んでいたか。 ¿Cuánto tiempo estuviste (ps) viviendo allí?

(9) Cuando llegué al aeropuerto, el avión ya había salido (pcp)⁶.

私が空港に着いたときには、飛行機はもう出ていた。

また、「点過去」と「線過去」の違いを共起する副詞によって説明する方法も問題を抱えている。というのも、例(10)(11)の *en aquellos tiempos* (あの当時)、また、例(12)(13)の *de pequeño(a)* (子どものころ) のような副詞句は、確かに、しばしば「線過去」と共起するものの、実際には、例(11)(13)が示すように、「点過去」と共起することも珍しくないからである。

(10) *En aquellos tiempos*, la juventud, en cambio, era (imp) más bien europeizante, (...) (CREA, *El País*, 01/10/1986)

あの当時、一方、若者たちはむしろヨーロッパ派だった。

(11) *En aquellos tiempos*, los problemas del capitalismo fueron (ps) precisamente no el alza de precios sino la caída de los precios, (...) (CREA, *La España necesaria*)

あの当時、資本主義の問題はまさに価格の上昇ではなく価格の下降であった。

(12) *De pequeña*, iba (imp) a los partidos con mi padre. (CREA, *El País*, 01/10/1986)

子どものころ、私は父と試合に行っていました。

(13) *De pequeño*, fue (ps) al colegio de su pueblo y (...) (CREA, *Estadio dos*, 28/02/87)

子どものころ、彼は村の学校に行った。

さらに、教科書の中には、「線過去」は「反復 (繰り返し)」を表すと説明したものがあるが、これも問題である。例(14)が示すように、ある特定の期間における反復は「線過去」のみならず「点過去」で表すことも可能であり、また、例(15)(16)が示すように、一見、「線過去」と共起しやすいように見

⁴ 例(7)(8)の下線部分はいずれも、英語の進行形 “be+ing” に相当する “estar+gerundio” からなる迂言形式の estar が「点過去」で表されたものである。

⁵ when someone was a boy (girl) に対応するスペイン語において、コンピュータ動詞(was)には、通常、動詞 ser の「線過去」が用いられるが、someone was a child prodigy に対応するスペイン語のコンピュータ動詞(was)には、同じ動詞 ser の「点過去」、「線過去」のいずれもが用いられる。

⁶ pcp は「過去完了」を示す。

える *siempre* (いつも) も「点過去」と共起可能であるのみならず、動詞によっては (例えば、*querer* (欲する) や *ser* (である)) では、「点過去」と共起することの方が多という事実があるからである。

(14) a. *El año pasado iba (imp) a nadar todos los días.*

去年私は毎日泳ぎに行っていた。

b. *El año pasado fui (ps) a nadar todos los días.* (Doiz-Bienzobas 1995:107)

去年私は毎日泳ぎに行った。

(15) Pues yo *siempre* quería (imp) ser maestra, (...) (CREA, Oral)

そうね、私はいつも学校の先生になりたかった...

(16) Yo *siempre* quise (ps) ser actor y (...) (CREA, *Tiempo*, 02/04/ 1990)

僕はいつも俳優になりたかった...

以上、スペイン語の教科書における「点過去」と「線過去」の違いを説明する主たる4つの方法を見たが、そのいずれにも問題があることが明らかになった。そこで、山村(2008)は、それらに代わり、「過去の出来事」は「点過去」、「過去の状況」は「線過去」、という説明を新たに提案したのである。ここで言う、「過去の出来事」は「点過去」とは、「点過去」は発話時以前に「何が起こったか」を表す時制であり、「過去の状況」は「線過去」とは、現在が発話時空間の「状況」を示すのと同様に、「線過去」は既定の過去時空間の「状況」を示すということを指す。しかし、この説明にも Yamamura (2016) が指摘した次のような問題がある。

(17) *Ahora bien, para que funcione bien esta nueva explicación, es indispensable que los alumnos japoneses comprendan, antes que nada, la diferencia entre acontecimiento y circunstancia en japonés.* (Yamamura 2016: 1049)

さて、この新しい説明がうまく機能するためには、日本人学習者たちが、何よりも、日本語における「出来事」と「状況」の違いを理解していることが欠かせない。

その問題とは、(17)が示すように、山村(2008)が提案した新たな説明が有効に働くためには、日本語を母語とするスペイン語学習者が、スペイン語の「点過去」と「線過去」の違いに対応するような形で、「過去の出来事」と「過去の状況」の違いを理解していなければならないということである。しかし、そのためには、そもそも日本語を母語とする人にとって、「過去の出来事」「過去の状況」という用語が何を、どのような文を喚起するのかを理解しておく必要がある。そうすることにより、「過去の出来事」・「過去の状況」を使って「点過去」と「線過去」の違いを説明する際、どのような部分に特に注意を払うべきかが明らかになるからである。そこで、本稿は、次節で述べるような、調査を実施することにした。

2. 調査：日本語母語話者にとっての「過去の出来事」・「過去の状況」とは何か。

本節では、調査の目的、調査方法、調査結果を示す。まず、調査の目的は、前述のように、日本語を母語とする人がどのような日本語文を「過去の出来事」、また、「過去の状況」と見なすかを明らかにすることである。その調査方法としては、スペイン語を第二外国語として履修している九州大学文

系学部2年生18名に対し、別紙1にある30の日本語文を示し、それらが「過去の出来事」、「過去の状況」のどちらに解釈されるかを回答させることにした⁷。別紙1には調査結果も記されているが、調査の際には、日本語文だけを提示し、それが「(過去の)出来事」、「(過去の)状況」のいずれに解釈されるかを、適切だと思う方に○をつける形で示してもらった。なお、調査対象となった18名の学生は1年次にすでに「点過去」と「線過去」の区別を学習しており、中には「点過去」は「過去の出来事」、「線過去」は「過去の状況」を表すという説明を受けた者もいたが、筆者自身からその説明を受けた者はいなかった。

さて、以上のような方法で調査した結果は、別紙2のようにまとめられる。別紙2は日本語文を「過去の出来事」あるいは「過去の状況」と見なした人数の多い順に並べたものである。上の欄には日本語文、下の欄には対応するスペイン語文、また、日本語文の横には述語の種類、スペイン語文の横には「点過去」・「線過去」の区別、さらに、いちばん右端の列には、「過去の出来事」は「点過去」、「過去の状況」は「線過去」という説明には合致しない、いわゆるミスマッチの結果を得たものにチェックを入れている。この結果のうち、18名中、その3分の2、すなわち、12名以上の者が「過去の出来事」と見なした文の特徴を、対応するスペイン語の時制、動詞文の場合はその限界性の有無⁸、動詞以外の場合は名詞文、形容詞文、そして文末形式が「タ」か「テイタ」によってまとめると表1になる。

表1：18名の2/3(12名)以上が「過去の出来事」とした文の特徴

18名中の回答者数	文番号 []	ps	Imp	限界	非限界	名詞・形容詞	タ	テイタ
18	1, 9, 14, 16, 28	5	0	4	1	0	5	0
17	5, 18	2	0	2	0	0	2	0
16	4	1	0	1	0	0	1	0
14	22	1	0	1	0	0	1	0
13	3, 26, 29	3	0	1	2	0	3	0

表1から、18名の3分の2以上が「過去の出来事」とした12文の特徴をまとめると、次のようになる。まず、それらに対応するスペイン語文はすべて「点過去」となる。また、当該12文のうち、9文は限界動詞、3文は非限界動詞を取っているが、名詞文、形容詞文はない。さらに、当該12文の文末形式はすべて「タ」を取っている。例えば、18名全員が「過去の出来事」と見なした質問1の文番号[1]「私は1998年に生まれました」という文の動詞「生まれる」は「限界動詞」で「タ」形、対

⁷ 調査は2018年5月23日、「スペイン語Ⅲ」の授業終了後の時間を使って実施された。質問紙の内容は別紙1を参照されたい。別紙1には日本語文に対応するスペイン語文も記載されているが、被験者に配付された質問紙にはこれらのスペイン語文は記載されていなかった。なお、この日本語に対応するスペイン語はまず筆者が作成し、後にスペイン語母語話者のフジヨシ・ミヨコ氏にチェックしてもらったものである。フジヨシ氏には記して感謝の意を示したい。

⁸ 日本語の動詞文の限界性の有無を決める際には、工藤(1995)を参考にした。

応するスペイン語文は *Nací(ps) en 1998* と *nacer* (生まれる) の「点過去」を取っている。一方、同じ 18 名全員が「過去の出来事」と見なした質問 5 の文番号[9]「あんた、この間の週末、何した」という文の動詞「する」は「非限界動詞」で「タ」形、対するスペイン語は *Y tú, ¿qué hiciste(ps) el pasado fin de semana?* と「点過去」を取っている。

次に、18 名中、3 分の 2 以上が「過去の状況」とした文の特徴を見てみよう。表 2 を見られたい。

表 2：18 名の 2/3(12 名) 以上が「過去の状況」とした文の特徴

18 名中の回答者数	文番号 []	ps	Imp	限界	非限界	名詞・形容詞	タ	テイタ
18	2, 19	0	2	0	1	1	1	1
17	7	0	1	0	0	1	1	0
16	8, 20	0	2	0	0	2	2	0
15	11, 13, 23, 24, 27	3	2	1	1	3	5	0
14	17	1	0	0	0	1	1	0
13	10, 12, 21	3	0	0	3	0	2	1
12	15	1	0	1	0	0	1	0

表 2 の中で網掛がついているのは、スペイン語では「点過去」で表されるもの、すなわち、山村(2008)の「過去の状況」は「線過去」という説明に合致しないものである。以下、表 2 から、18 名の 3 分の 2 以上が「過去の状況」とした 15 文の特徴をまとめる。

当該 15 文のうち、スペイン語で「線過去」で表されるのは 7 文、「点過去」で表されるのは 8 文である。また、当該 15 文のうち、限界動詞で表されたものは 1 文、非限界動詞で表されたものは 7 文、残りの 7 文は名詞文あるいは形容詞文であった。さらに、当該 15 文のうち、文末形式が「タ」のもののは 13 文、「テイタ」のものは 2 文であった。これらの特徴のうち、特に注目したいのは、被験者は「過去の状況」と見なしているが、スペイン語では「点過去」で表された文、すなわち、網掛で示された、非限界動詞の 3 文、限界動詞の 1 文、名詞文・形容詞文の 4 文である。例えば、18 名中 15 名が「過去の状況」と見なした質問 6 の文番号[13]「もう最低だった」は形容詞文であるが、対するスペイン語は *Fue(ps) un desastre* のようにコピュラ動詞 *ser* の「点過去」で表される。また、18 名中 13 名が「過去の状況」と見なした質問 5 の文番号[10]「家にいた」は非限界の状態動詞文であるが、これにも対するスペイン語も *estuve(ps) en casa* のようにもうひとつのコピュラ動詞 *estar* の「点過去」で表される。

以上の調査結果をまとめると、次のようになる。すなわち、日本語母語話者にとって「過去の出来事」と見なされる文のほとんどはスペイン語の「点過去」に対応する。このことから、日本語を母語とするスペイン語学習者に対して、「過去の出来事」はスペイン語の「点過去」に対応する」と説明することは有効だと思われる。一方、日本語母語話者にとって「過去の状況」と見なされる文には、

スペイン語の「線過去」に対応するもののみならず、スペイン語の「点過去」に対応するものもあった。したがって、日本語を母語とするスペイン語学習者に対して、「過去の状況」はスペイン語の「線過去」に対応すると説明するだけでは、誤用を引き起こす可能性があるということになる。そこで、次節では、日本語母語話者の「過去の出来事」、「過去の状況」の認識とスペイン語の「点過去」、「線過去」の選択のミスマッチに焦点をあて、それらを克服するにはどのようにすればよいかを検討していく。

3. 考察：日本語母語話者の「過去の出来事」・「過去の状況」の認識とスペイン語の ps あるいは imp のミスマッチ

まず、上の調査で日本語母語話者の認識とスペイン語時制の選択のミスマッチが顕著であったものから見ていこう。何よりも注目すべきは、日本語母語話者にとっての「過去の状況」がスペイン語の「点過去」で表される場合である。具体的には、例(18)(19)(20)のような文である。例(18)の述語「最低だった」は名詞あるいは形容動詞、例(19)の述語「ひどい天気だった」は名詞である。また、例(20)の述語「楽しかった」は形容詞であるが、これらの例は、日本語母語話者にとって、名詞文、形容詞文といった非動詞文は、動詞ではないということだけで「状況」と見なされる可能性があることを示唆しているように見える。

(18) 6-[12]⁹ A: 昨日の飲み会どうだった? (出来事 5, 状況 13)¹⁰

¿Qué tal fue (ps)/estuvo (ps) la fiesta de ayer?

6-[13] B: もう、最低だった。(出来事 3, 状況 15)

Fue (ps) un desastre, de verdad.

(19) 13-[24] 今日はいい天気だけど、昨日はひどい天気だった。(出来事 3, 状況 15)

Hoy hace buen tiempo, pero ayer hizo (ps) muy mal tiempo.

(20) 8-[16] A: 今年の夏休み、どこかに行った? (出来事 18, 状況 0)

Este verano, ¿te fuiste (ps)/saliste (ps) de vacaciones?

8-[17] B: うん、沖縄に行った。すごく楽しかったよ。(出来事 4, 状況 14)

Sí, fui a Okinawa. Lo pasé (ps) muy bien.

しかし、動詞文の中にも、「過去の状況」とスペイン語の「点過去」というミスマッチが見られるものがある点は看過できない。例(21)の「緊張した」について、日本語母語話者の多くは「過去の状況」と見なしているが、対応するスペイン語は「点過去」である。

(21) 12-[22] 私、太郎とふたりっきりになった途端 (出来事 14, 状況 4)、

Yo, en cuanto me quedé (ps) sola con Taro,

12-[23] 緊張した。(出来事 3, 状況 15)

me puse (ps) nerviosa.

⁹ 例番号の後の数字は別紙 1 の問題番号、[]の数字は問題文の番号を示す。

¹⁰ 括弧内の数字は被験者 18 名のうち当該文を「過去の出来事」あるいは「過去の状況」と見なした人数を示している。

また、例(22)の「家にいた」の「いる」は非限界の状態動詞であるが、このように状態動詞が用いられた文も日本語母語話者は「過去の状況」と見なす傾向にある。しかし、当該文に対応するスペイン語は「点過去」になる。

(22) 5-[9] A: あんた、この間の週末、何した? (出来事 18, 状況 0)

Y tú, ¿qué hiciste (ps) el pasado fin de semana?

5-[10] B: 別に、ずっと家にいた。(出来事 5, 状況 13)

Nada, estuve (ps) todo el tiempo en casa

5-[11] だって、レポート書かなきゃならなかったから。(出来事 3, 状況 15)

porque tenía (imp) que escribir un informe.

さらに、日本語母語話者が「過去の状況」と見なす文の中には、例(23a)(23b)のように、文末が「テイタ」になっているものもある。しかし、同じ「テイタ」で終わっていても対応するスペイン語は異なることがあり、実際、例(23a)は「点過去」になるが、例(23b)は「線過去」になる。

(23) a. 11-[21] 太郎はスペインに留学したことがあるって聞いたけど、何年くらい住んでいたの?

(出来事 5, 状況 13)

He oído que Taro ha estado España para estudiar. ¿Cuánto tiempo vivió (ps) /estuvo (ps) viviendo allí?

b. 1-[2] 私は1998年に生まれました。(出来事 18, 状況 0) その当時、私の家族は札幌に住んでました。(出来事 0, 状況 18)

Nací en 1998. En ese entonces, mi familia vivía (imp) en Sapporo.

一方、例(24)の「気に入った」は、日本語の動詞分類では限界動詞になるが、「過去の状況」と見なす者が3分の2の12名いた。

(24) 7-[14] A: 昨日プレゼント届いたよ。(出来事 18, 状況 0) ありがとう。

Ayer me llegó el regalo. Gracias.

7-[15] B: どう? 気に入った? (出来事 6, 状況 12)

¿Qué? ¿Te gustó (ps)?

次に、日本語母語話者が「過去の出来事」と見なした文がスペイン語の「線過去」によって表された例を見る。今回の調査では、そのような例はほとんど見られなかったが、例(25)はそれにあてはまるかもしれない。「あまりに面白かった」というのは例(20)の「楽しかった」と同じく形容詞であるが、「あまりに面白かった」は7名が「過去の出来事」と見なし、「すっごく楽しかった」は4名が「過去の出来事」と見なしていた。しかし、対応するスペイン語の時制は異なり、例(25)は「点過去」、「線過去」のいずれでも表すことができるが、例(20)は「点過去」でしか表されない。

(25) 14-[25] ゲームがあまりに面白かったんで (出来事 7, 状況 11)、

- El juego fue (ps)/era (imp) /estuvo (ps) /estaba (imp) tan divertido que
 14-[26] タベはつい徹夜した。(出来事 13, 状況 5)
 ayer me quedé despierto toda la noche sin darme cuenta.

さて、ここからは先に見た日本語母語話者の認識とスペイン語時制のミスマッチ、とりわけ、日本語母語話者が「過去の状況」と見なす文がスペイン語の「点過去」で表される際にどのような説明をすべきか、その方策を考えていきたい。

まず、日本語を母語とするスペイン語学習者には、日本語の名詞文、形容詞文は必ずしも「線過去」で表されるわけではないことを明示しておく必要がある。そのためには、例(26a)(26b)のペアをあげることができるだろう。

- (26) a. 13-[24] 今日はいい天気だけど、昨日はひどい天気だった。(出来事 3, 状況 15)
 Hoy hace buen tiempo, pero ayer hizo (ps) muy mal tiempo.
 b. 15-[27] 僕たちがそこに着いたときは、ひどい天気だった。(出来事 3, 状況 15)
 Cuando llegamos allí, hacía (imp) muy mal tiempo.

また、それらと同じ天候表現が「点過去」で表された例(27)をあげるのもよいだろう。例(27a)はある特定の時点における天候がどうだったかを問題にしていること、例(27b)は、当該の天候が与格 *nos* (私たちに)が示す人にとって特に関与的であったことを示している点がポイントになる。

- (27) a. El 12 de junio de 1994 hizo (ps) buen tiempo en Los Ángeles. (CREA, *Genes en tela de juicio*)
 1994年6月12日ロサンゼルスはよい天気だった。
 b. Nos hizo (ps) buen tiempo, aunque no salimos de la clínica y sólo pudimos pasear por Londres el último día. (CREA, *Feliz aniversario*)
 私たちにはよい天気だった、とはいえ私たちはクリニックから出ずにただ最後の日にロンドンを散歩することができただけだった。

同様に、過去のあるコト・モノの「評価」を表す形容詞文は、例(28a)のように、「点過去」で表されることが少なくないことを確認させることも必要である。そして、理想的には、例えば、「最低だ」という日本語文が例(28a)のように「点過去」で表される場合と例(28b)のように「線過去」で表される場合の違いが、「過去の出来事」と「過去の状況」という用語を使いながら説明できればよい。

- (28) a. Caras largas, sonrisas forzadas y unanimidad en la autocrítica: el ataque español frente a Dinamarca fue (ps) un desastre. (CREA, *Diario de Jerez Digital*, 27/01/2004)
 浮かぬ顔、無理強い笑顔、満場一致の自己批判：デンマークに対するスペインの攻撃は最低だった。
 b. La aventura de Nido comenzó hace unos 15 años con una cooperativa de padres que se unieron para ayudar a sus hijos deficientes. "Aquello era (imp) un desastre -explica el periodista-(...)". (CREA, *El Mundo*, 15/12/1996)

ニドの冒険は約 15 年前に障害のある子どもたちを助けるために集まった親たちの協同組合とともに始まった。「あれは最低でしたよ」と記者は説明する。

ここで参照したいのが、Guitart (1978)の例(29)に対する解説である。

(29) Fue (ps) una experiencia inolvidable.

“Of course (29) does not mean ‘it was an unforgettable experience and is no longer so’, (...). Rather, (29) conveys the notion that **I perceived a certain experience as being of the unforgettable kind and continued to perceive it as such.**”(Guitart 1978: 148, 太字は筆者。)

Guitart(1978:148)によれば、「それは忘れがたい経験だった」という名詞文がコピュラ動詞 *ser* の「点過去」によって表されると、その文は話し手が当該の経験を忘れがたいものとして知覚し、そのようなものとして知覚し続けたことを示すことになる。この解説から本稿は、名詞文、形容詞文が「点過去」で表される場合には、発話時から見た、過去のコト・モノに対する、話し手の「知覚・評価」という出来事の生起、すなわち、それは「話し手が、発話時から、当該の過去のコト・モノをどう見たか、どう評価したか」が表されることになると考えたい。換言すれば、当該の名詞文、形容詞文が「それについて話し手は～と知覚・評価した」とパラフレーズできるならばスペイン語の「点過去」が用いられるということである。

一方、名詞文、形容詞文が「線過去」で表される場合には、「線過去は過去における現在に等しい」という説明が有効だと思われる。つまり、「現在」が発話時に存在するコト・モノの「描写」をするのと同様に、「線過去」は既定の過去時に存在するコト・モノの「描写」をするというわけである。このように考えるならば、例(30)のように、同じ *Savio* という対象に対する属性を表すのになぜコピュラ動詞 *ser* の「線過去」と「点過去」という異なる時制形式が使われうるのかも理解できるであろう。

(30) Savio era (imp) bueno, pero fue (ps) uno de esos jugadores que brillan un día, luego se lesionan y no vuelven a ser lo mismo. (...) (<https://blogs.20minutos.es/quefuede/2014/03/11/que-fue-de-savio-bortolini-el-regateador-que-enamoro-al-bernabeu/>)

サビオはよかった、しかし、彼は、一度は目立つが、その後は怪我で二度と元には戻らないといった選手のひとりだった。

つまり、「線過去」で表された *era bueno* ((サビオは) よかった) は当該対象の過去の一般的な「描写」に過ぎないが、「点過去」で表された *fue uno de esos jugadores que...* ((彼は) ...という選手のひとりだった) は、当該対象に対して話し手が下した「評価」を表しているのである。このように上述の説明に従えば、先に見た例(18)の「最低だった」、例(20)の「すっごく楽しかったよ」が「点過去」で表されたことも理解できる。いずれの文も過去に起こったコトに対する話し手の「評価」がどうだったかを問題にしているからである。

次に動詞文における「過去の状況」と「点過去」のミスマッチについて考えてみたい。具体的には、日本語の状態動詞「いる」や「テイタ」で表された動詞文が「点過去」であらわされる場合であるが、これらについては、「過去の出来事」は「点過去」、すなわち、「発話時から見て、過去に「何が起こったか」、「誰がどうしたのか」を表す場合は「点過去」を用いる」という説明をうまく応用すること

が肝要に見える。例えば、先に見た例(22)「この間の週末何した？」という質問に対する答え、「ずっと家にいた」で「点過去」が使われるのは、例(31)が示すように、[yo ir al cine con él (彼と映画に行くコト)]という事態の生起が「点過去」で表わされるのと同じく、[yo estar todo el tiempo en casa (私がずっと家にいるコト)]という事態が起こったことを表すためである、と説明するのである。

(31) A: Y tú, ¿qué hiciste (ps) el pasado fin de semana?

で、あんた、この間の週末何した？

B: a. Bueno, fui (ps) al cine con mi chico.

そう、彼と映画に行ったわ。

b. Pues, nada, estuve (ps) todo el tiempo en casa.

えっと、別に、ずっと家にいたわ。

また、例(23)「何年くらい住んでいたの」という文が「点過去」で表されるのも同様に、[(él) vivir/estar viviendo ((彼が) 住むコト/住んでいるコト)]という事態がどのくらいの期間において起こったのかを表すために「点過去」が使われたと説明できる。

一方、当該事態がある既定の過去時に存在するコト・モノの「描写」になる場合には、「線過去」が使われることになる。先にも述べたように、これは発話時に存在するコト・モノを描写する場合に「現在」が使われるのと同じであり、そこには「現在」と「線過去」の機能的並行性が見られる¹¹。

4. 結論に代えて

最後に、「過去の出来事」は「点過去」、「過去の状況」は「線過去」という説明の長所と短所をあげながら、本稿をまとめてみたい。

まず、この説明の長所としては、日本語母語話者が「過去の出来事」とみなす文のほとんどはスペイン語の ps に対応する、したがって、「過去の出来事」はスペイン語の「点過去」で表す」という説明はある程度有効と言える点である。それに対して、「過去の状況」は「線過去」という説明は、日本語母語話者が「過去の状況」と見なす文はスペイン語の「点過去」に対応することが少なくないという点で問題があった。それではこの問題点を克服するには、どうしたらよいのだろうか。

上でも見たように、日本語母語話者にとってとりわけ難しいのは、彼らが「過去の状況」と見なす名詞文、形容詞文がスペイン語の「点過去」で表される場合である。そのような場合にスペイン語教師がまずすべきは、話し手の過去のコト・モノに対する「知覚」・「評価」、すなわち、話し手が過去のコト・モノをどのように知覚したのか、どのように評価したかは「過去の出来事」と見なされる、したがって、それを表すスペイン語文では出来事を表す「点過去」が使用される、ということを学習者に明示することであろう。一方、同じ名詞文、形容詞文が「線過去」で表される場合は、話し手によ

¹¹ 「現在」と「線過去」の機能的並行性は、次の例が示すように、スペイン語の時制の一致現象によっても確認される。i) María dijo (ps): “Estudio (pr) en la Universidad de Kyushu.” マリアは「私は九州大学で勉強しているの」と言った。ii) María dijo (ps) que estudiaba (imp) en la Universidad de Kyushu. マリアは九州大学で勉強していると言った。つまり、i)のように主動詞が過去の直接話法をii)のような間接話法にすると、直接話法の従属文中の「現在(pr)」は間接話法の従属文中では「線過去」に転換されるのである。

るそのような「知覚」・「評価」が起こったのではなく、単に当該の過去時に存在しているコト・モノの一般的特徴を「描写」しているだけであり、それは発話時に存在しているコト・モノの一般的特徴を「描写」する場合に「現在」が使われるのと同じである、と説明することができる。

また、日本語母語話者が「過去の状況」と見なすことが多い状態動詞や「テイタ」で終わる動詞文もスペイン語では「点過去」によって表されることが少なくないが、この場合も同様に、当該文で「点過去」が使用されるは、当該文がある過去時に「何が起こったのか」、「誰がどうしたのか」ということを表しているからに他ならないからである、と説明することができる。

参考文献

- 工藤真由美(1995):『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現』ひつじ書房
- 添谷さゆり(2013):「直説法点過去と線過去の選択—SER動詞の観点から—」清泉女子大学卒業論文
- 山村ひろみ(2008):「日本語母語話者のためのスペイン語点過去と線過去の教授法をめぐって」『言語文化論究』No.23, 69-88.
- Doiz-Bienzobas, A.(1995): *The preterit and the imperfect in Spanish past situation vs. past viewpoint*, UMI Dissertations Services.
- Guitart, J. M. (1978): "Aspects of Spanish aspect: A new look at the preterit/imperfect distinction", in Suñer, M. (ed) *Contemporary Studies in Romance Linguistics*, 132-168, Washington D.C.: Georgetown University Press.
- Sándor, L. (2006): *Tiempo para practicar los pasados*, Madrid: Edelsa.
- Yamamura, H. (2016): "Una propuesta para la enseñanza del pretérito perfecto simple y el pretérito imperfecto con especial atención a los alumnos japoneses de ELE", *La enseñanza de ELE centrada en el alumno*, Morimoto Yuko, Pavón Lucero María Victoria y Santamaría Martínez Rocío (eds.), XXV Congreso Internacional ASELE, 1045-1051.

別紙1 「出来事・状況」調査(2018/05/23, 5時限目, 文系学生, 18名)

下線部分は過去の「出来事」でしょうか、それとも、過去の「状況」でしょうか。
適切だと思うほうに○をつけてください。

1. 私は1998年に生まれました[1] (出来事18・状況0)。その当時、私の家族は札幌に住んでました[2] (出来事0・状況18)。

Nací (ps) en 1998. En ese entonces mi familia vivía (imp) en Sapporo.

2. このあいだ天神に行った[3] (出来事13・状況5)とき、僕はばったり花子に会った[4] (出来事16・状況2)。

El otro día, cuando fui (ps) a Tenjin, me encontré (ps) con Hanako por casualidad.

3. 昨日僕は寝坊した[5] (出来事17・状況1)ので、スペイン語の授業には出られなかった[6] (出来事11・状況7)。

Ayer, como me levanté (ps) tarde, no pude asistir (ps) a la clase de español.

4. 僕は子供だった頃[7] (出来事1・状況17)、昆虫採集が大好きだった[8] (出来事2・状況16)。

Quando era(imp) niño, me gustaba(imp) mucho cazar insectos.

5. A: あんた、この間の週末、何した?[9] (出来事18・状況0)

Y tú, ¿qué hiciste (ps) el pasado fin de semana?

B: 別に、ずっと家にいた[10] (出来事5・状況13)。だって、レポート書かなきゃならなかった[11] (出来事3・状況15)から。

Nada, estuve (ps) todo el día en casa porque tenía (imp) que escribir un informe.

6. A: 昨日の飲み会どうだった?[12] (出来事5・状況13)

¿Qué tal fue/estuvo(ps) la fiesta de ayer?

B: もう、最低だった[13] (出来事3・状況15)。Fue (ps) un desastre, de verdad.

7. A: 昨日プレゼント届いた[14] (出来事18・状況0)よ。ありがとう。

Ayer me llegó (ps) el regalo. Gracias.

B: どう?、気に入った?[15] (出来事6・状況12) ¿Qué? ¿Te gustó (ps)?

8. A: 今年の夏休み、どこかに行った?[16] (出来事18・状況0)

Este verano, ¿te fuiste/saliste (ps) de vacaciones?

B: うん、沖縄に行った。すっごく楽しかったよ![17] (出来事4・状況14)

Sí, fui a Okinawa. Lo pasé (ps) muy bien.

9. 昨日天神で太郎を見かけた[18] (出来事 17・状況 1) んだけど、すっごく可愛い子と一緒にだった [19] (出来事 0・状況 18)。Ayer vi (ps) a Taro en Tenjin. Estaba (imp) con una chica muy guapa.
10. このあいだ太郎のところに行ったんだけど、今度の部屋は南向きだった[20] (出来事 2・状況 16)。
El otro día fui a la nueva casa de Taro, ésta daba (imp) al sur.
11. 太郎はスペインに留学したことあるって聞いたけど 何年くらい住んでいた [21] (出来事 5・状況 13) の？
He oído que Taro ha estado en España para estudiar. ¿Cuánto tiempo estuvo (ps) viviendo allí?
12. 私、太郎とふたりっきりになった途端[22] (出来事 14・状況 4)、緊張した [23] (出来事 3・状況 15) の。
Yo, en cuanto me quedé (ps) sola con Taro, me puse (ps) nerviosa.
13. 今日はいい天気だけど、昨日はひどい天気だった[24] (出来事 3・状況 15)。
Hoy hace buen tiempo, pero ayer hizo (ps) muy mal tiempo.
14. ゲームがあまりに面白かった[25] (出来事 7・状況 11) んで、夕べはつい徹夜した[26] (出来事 13・状況 5)。
El juego estuvo(ps)/fue(ps)//estaba(imp)/era(imp) tan divertido que ayer me quedé (ps) despierto toda la noche sin darme cuenta.
15. 僕たちがそこに着いたときは、ひどい天気だった [27] (出来事 3・状況 15)。
Cuando llegamos allí, hacía (imp) muy mal tiempo.
16. 私は国会議員になった[28] (出来事 18・状況 0) とき、民間企業の役職をすべて辞任しました。
Cuando fui (ps)/me hice(ps) diputado, dimítí de todos los cargos que tenía en empresas privadas.
17. 彼は 2010 年から 2015 年まで委員長を務めました[29] (出来事 13・状況 5)。
Tuvo (ps) el cargo de presidente desde el año 2010 hasta el año 2015.
18. 私は大人になってやっとそれが分かりました[30] (出来事 10・状況 8)。
Cuando fui/me hice mayor, por fin lo entendí (ps).

別紙2 調査結果

別紙2 出来事 18名中		調査結果		状況 18名中	
質問・文番号	日本語文/スペイン語文	質問・文番号	日本語文/スペイン語文	質問・文番号	日本語文/スペイン語文
18	1-[1] 私は1998年に生まれました Nací en 1998.	18	1-[2] 札幌に住んでました mi familia vivía en Sapporo	18	1-[2] すごく可愛い子と一緒だった estaba con una chica muy guapa
18	5-[9] A: あんた、この間の週末、何した? Y tú, ¿qué hiciste el pasado fin de semana?	17	4-[7] A: 昨日プレゼント届いた Ayer me llegó el regalo.	17	4-[7] 子供だった頃 Cuando era niño
18	7-[14] A: 今年の夏休み、どこかに行った? Este verano, ¿te fuiste/saliste de vacaciones?	16	8-[16] 私は国会議員になったとき Cuando fui/me hice diputado	16	4-[8] 昆虫採集が大好きだった me gustaba mucho cazar insectos
17	3-[5] 昨日僕は寝坊したので Ayer como me levanté tarde.	16	16-[28] 昨日花子に会った me encontré con Hanako por casualidad.	16	10-[20] 今度の部屋は南向きだった ésta daba al sur
17	9-[18] 昨日天神で太郎を見かけたんだけど Ayer vi a Taro en Tenjin.	15	5-[11] 太郎とふたりっきりになった途端 en cuanto me quedé sola con Taro	15	5-[11] (B)だって、レポート書かなきゃならなかったから porque tenía que escribir un informe.
16	2-[4] 僕はばったり花子に会った me encontré con Hanako por casualidad.	15	2-[3] このあいだ天神に行ったとき El otro día, cuando fui a Tenjin	15	6-[13] B: もう、最低だった Fue un desastre, de verdad.
14	12-[22] 太郎とふたりっきりになった途端 en cuanto me quedé sola con Taro	15	12-[23] 緊張した me puse nerviosa	15	12-[23] 緊張した me puse nerviosa
13	2-[3] このあいだ天神に行ったとき El otro día, cuando fui a Tenjin	15	13-[24] 昨日はひどい天気だった ayer hizo muy mal tiempo	15	13-[24] 昨日はひどい天気だった ayer hizo muy mal tiempo
13	14-[26] タベはつい徹夜した que ayer me quedé despierto toda la noche sin darme cuenta	15	15-[27] ひどい天気だった hacia muy mal tiempo	15	15-[27] ひどい天気だった hacia muy mal tiempo
13	17-[29] 委員長を務めました tuvo el cargo de presidente	14	8-[17] B: うん、沖縄に行った。すごく楽しかったよ! Sí, fui a Okinawa. Lo pasé muy bien.	14	8-[17] B: うん、沖縄に行った。すごく楽しかったよ! Sí, fui a Okinawa. Lo pasé muy bien.
11	3-[6] スペイン語の授業には出られなかった no pude asistir a la clase de español	13	5-[10] 委員長を務めました tuvo el cargo de presidente	13	5-[10] B: 別に、ずっと家にいた Nada, estuve todo el día en casa
10	18-[30] やっとなんか分かりました por fin lo entendí	13	6-[12] A: 昨日の飲み会どうだった? ¿Qué tal fue la fiesta de ayer?	13	6-[12] A: 昨日の飲み会どうだった? ¿Qué tal fue la fiesta de ayer?
7	14-[25] ゲームがあまりに面白かったんで El juego fue/era/estuvo/estaba tan divertido	13	11-[21] 何年くらい住んでいた ¿Cuanto tiempo estuvo viviendo allí?	13	11-[21] 何年くらい住んでいた ¿Cuanto tiempo estuvo viviendo allí?
		7	14-[25] ゲームがあまりに面白かったんで El juego fue/era/estuvo/estaba tan divertido	12	7-[15] B: どう? ¿Te gustó? ¿Qué? ¿Te gustó?

6	7-[15]	B: どう?、氣に入った? ¿Que? ¿Te gustó?	限界 ps	✓	11	14-[25]	ゲームがあまりに面白かったんで El juego fue/era/estuvo/estaba tan divertido	形容詞 ps/imp	?
5	5-[10]	B: 別に、ずっと家にいた Niada, estuve todo el día en casa	非限界(状態) ps	✓	8	18-[30]	やっとそれが分かりました por fin lo entendí	限界 ps	✓
5	6-[12]	A: 昨日の飲み会どうだった? ¿Qué tal fue/estuvo la fiesta de ayer?	非限界 ps	✓	7	3-[6]	スペイン語の授業には出られなかった no pude asistir a la clase de español	非限界 ps	
5	11-[21]	何卒くらい住んでいた ¿Cuánto tiempo estubo viviendo allí?	非限界 ps	✓	5	2-[3]	このあいだ天神に行ったとき El otro día, cuando fui a Tenjin	限界 ps	
4	8-[17]	B: うん、沖繩に行った。すっごく楽しかったよ! Sí, fui a Okinawa. <u>La pasé muy bien.</u>	形容詞 ps	✓	5	14-[26]	タベはつい徹夜した que ayer me quedé despierto toda la noche sin darme cu	非限界 ps	
3	5-[11]	(B)だって、レポート書かなきゃならなかったから porque tenía que escribir un informe.	非限界 imp		5	17-[29]	委員長を務めました tuvo el cargo de presidente	非限界 ps	
3	6-[13]	B: もう、最低だった Fue un desastre, de verdad.	形容詞 ps	✓	4	12-[22]	太郎とふたりきりになった途端 en cuanto me quedé sola con Taro	限界 ps	
3	12-[23]	緊張した me puse nerviosa	非限界 ps	✓	2	2-[4]	僕はばったり花子に会った me encontré con Hanako por casualidad.	限界 ps	
3	13-[24]	昨日はひどい天気だった ayer hizo muy mal tiempo	名詞 ps	✓	1	3-[5]	昨日僕は寝坊したので Ayer, como me levanté tarde.	限界 ps	
3	15-[27]	ひどい天気だった hacia muy mal tiempo	名詞 imp		1	9-[18]	昨日天神で太郎を助けたんだけど Ayer vi a Taro en Tenjin.	限界 ps	
2	4-[8]	昆虫採集が大好きだった me gustaba mucho cazar insectos	形容詞 imp		0	1-[1]	私は1998年に生まれました Nací en 1998.	限界 ps	
2	10-[20]	今度の部屋は南向きだった ésto daba al sur	名詞 imp		0	5-[9]	A: あんた、この間の週末、回した? Y tú, ¿qué hiciste el pasado fin de semana?	限界 ps	
1	4-[7]	子供だった頃 Cuando era niño	名詞 imp		0	7-[14]	A: 昨日プレゼント届いた Ayer me llegó el regalo.	限界 ps	
0	1-[2]	札幌に住んでました mi familia vivía en Sapporo	非限界 imp		0	8-[16]	A: 今年の夏休み、どこかに行った? Este verano, ¿te fuiste/saliste de vacaciones?	限界 ps	
0	9-[19]	すっごく可愛い子と一緒にだった estaba con una chica muy guapa	名詞 imp		0	16-[28]	私は国会議員になったとき Cuando fui/me hice diputado	限界 ps	

<resumen>

¿Qué es lo que consideran como “acontecimientos en el pasado” y “circunstancias en el pasado” los alumnos japoneses de ELE?: para una mejor enseñanza de la distinción entre el pretérito perfecto simple y el pretérito imperfecto

Hiromi YAMAMURA

Yamamura (2016) propone un nuevo método para explicar a los alumnos japoneses de ELE las diferencias entre el pretérito perfecto simple y el pretérito imperfecto en español, según el cual el pretérito perfecto simple expresa acontecimientos en el pasado como la forma verbal –TA en japonés, mientras que el pretérito imperfecto expresa circunstancias en el pasado como la forma verbal en japonés –TEITA. Sin embargo, como se indica en el propio artículo, para que dicho método funcione bien en las aulas, es indispensable la comprensión correcta por parte de los alumnos de la distinción entre “acontecimientos en el pasado” y “circunstancias en el pasado”. De esta inquietud surge este trabajo, cuyo objetivo está en comprobar la validez de la nueva propuesta de Yamamura (2016) a través de una encuesta realizada a 18 alumnos japoneses que estudian español como segunda lengua extranjera, la cual se ha llevado a cabo de la siguiente manera:

- i. Se les presentaron a los alumnos 30 oraciones japonesas que pudieran ser consideradas como “acontecimientos en el pasado” o “circunstancias en el pasado”.
- ii. Los alumnos eligieron con un círculo si la oración en cuestión era interpretada como un acontecimiento en el pasado o como una circunstancia en el pasado.

Después, cada una de las 30 oraciones japonesas se ha traducido al español para saber si la oración en cuestión correspondía al pretérito perfecto simple o al pretérito imperfecto. Finalmente se ha analizado la correlación entre el resultado de la encuesta y las correspondencias entre las 30 oraciones japonesas y sus traducciones al español.

El resultado del análisis se resume como sigue:

- a. La mayoría de las oraciones japonesas que los alumnos japoneses interpretan como “acontecimientos en el pasado” corresponde a las oraciones expresadas en el pretérito perfecto simple. Esto sugiere que la explicación de que “un acontecimiento en el pasado” corresponda al pretérito perfecto simple resulta válida, aunque no perfectamente.
- b. Las oraciones japonesas que los alumnos japoneses juzgan como “circunstancias

en el pasado”, sobre todo, las que son predicados nominales o adjetivales, corresponden no pocas veces a oraciones expresadas en el pretérito perfecto simple. De eso se puede concluir que la explicación de que “una circunstancia en el pasado” corresponda al pretérito imperfecto no resulta ser tan válida como se esperaba. Para minimizar posibles errores causados por la diferencia entre la interpretación de los alumnos sobre “circunstancias en el pasado” y el comportamiento real del pretérito perfecto simple, es necesario indicar claramente a los alumnos los casos en los que una evaluación por parte del hablante mismo de algún objeto en el pasado puede ser considerada como un acontecimiento en el pasado.

- c. Los alumnos japoneses tienden a considerar como “circunstancias” oraciones japonesas que se componen de verbos de tipo estativo, las que, sin embargo, corresponden a menudo a oraciones expresadas en el pretérito perfecto simple. Para evitar posibles errores, es imprescindible señalarles que una oración que puede ser respuesta a preguntas como “¿Qué ocurrió?”, “¿Quién lo hizo?” o “¿Qué hizo?” siempre se expresa en el pretérito indefinido, sea cual fuere el verbo seleccionado.